

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆ 2009年5月23日・24日両日、明海大学との共催で、2009年度日本語教育学会春季大会が同大学浦安キャンパスで開かれた。今回は、受け付けた参加者が961名、発表者・招待者・関係者が140名で、総計1,101名の参加者があった。

1. 1日目は、開会式に続いて、表彰式が行われ、論文賞に該当論文の筆者廣瀬香恵氏、奨励賞に石黒圭氏、学会賞に山田泉氏が選ばれ、それぞれ賞状・賞品が授与された。受賞者からは一人ずつスピーチがあった。
2. 今回から初めての方式として、大会委員会企画のシンポジウムを行わず、パネルセッションの採択を増やして、初日からパネル発表を行った。三つの会場で計6件の発表が行われた。(ただし、会場の関係で一つのパネルだけが二日目の午前に開催。)この方式は、「自分の興味に合うパネルの選択ができる」「複数のパネルが一日で見られる」などと、参加者にはおおむね好評であった。今後も、春季大会にはこの方式を採用して、より多くの会員に発表の機会を与えることとする。
3. 懇親会は、同じキャンパスのレストラン、「ニューマリズ」で行われた。東京近郊での開催であることもあって、参加者数151名と盛況であった。
4. 2日目には、四つの会場で23件の口頭発表と1件のパネルセッション、一つの会場で10件のポスター発表、一つの会場で5件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。なお、12:45からの45分、国際交流基金と日本国際教育支援協会の企画で「日本語能力試験改定」についての説明が催され、学会員に関心の強い話題であるため、多くの聴衆を集めた。

◆ 2009年5月24日、明海大学講義棟4302会議室において、2009年度第2回大会委員会が開かれた。主な課題と審議の様子は、以下のとおりである。

1. 2009年度秋季大会(九州大学)の企画・運営進捗状況について

会場校である九州大学から、大会実行委員の小山悟氏の参加を得て、同氏提供の資料により進捗状況の報告を受けた。大会企画シンポジウム「日

本語能力試験の改定」は、大会委員会ではなく「九日連(事務局:福岡YWCA)」の協力を得ながら九大が企画運営するもので、以前国際交流基金で試験関係職務に従事していた小森和子氏を中心に九大側委員から2名、大会委員からは松岡副委員長が参加する委員会で企画・運営することになる旨の報告があった。この委員会の今後のスケジュール等について、大会委員会終了後の13:45より川口委員長、国際交流基金の企画担当者である大隅敦子氏、堀川有美氏を交えて打ち合わせが行われた。

なお、今回のように地方の日本語教育機関が「九日連」のような組織に集結して、情報やマンパワーの共有を行うケースが成功すれば、九州・沖縄地区においては、実働部隊として動ける人がいないため、大会開催の要請承諾に二の足を踏む機関でも大会の開催が可能になるということは、大会委員会としては喜ばしいことである。

2. 2009年度秋季大会以降の企画・運営について
2010年春季大会は早稲田大学が会場校となることが承認されたので、本年9月ぐらいを目途に二通次期委員長と事務局とで会場下見のため早大を訪問することになると報告された。また、2010年秋季大会は、神戸大学への開催依頼が承諾されたとの報告があり、これを承認した。

3. 今大会実施状況についての中間報告

以下のような事案が報告され、それぞれについて審議した。

口頭発表第四会場でスクリーンが下がらないトラブルが発生、会場変更を余儀なくされたが、変更した会場にワイヤレスなく、マイク2本のコードを伸ばして対応した。

口頭発表第三会場では、映像が映らず、発表者の持参パソコンを通して映写して解決した。映像など大容量のソフトで発表する人は今後増える可能性があり、対応の検討を課題とすることを確認した。

パネルセッションに発表者の会員番号発表者持参の)のメモリスティックが読めず、カードリーダーを買いに行ったり、研究室で変換したりして何とかしのいだ。どのようなメディアが会場で使用可能か、今後詳しく指示する必要はあるが、ソフト変換機器のマルチリーダーは3000円程度なので学会で一つ買っておくべきことが確認された。このことに関連して、発表者のソフトの事前バックアップの是非が議論されたが、結論としてはバックアップはせず、基本的に「USBフラッシュのみ」として、会場校のPC環境の状況詳細を発表者に伝えることを確認した。

後半のパネル打合せ時に前半の人たちがまだ残っていて、落ち着いて出来なかった。パネルが午前と午後にある場合でも、最初にまとめてやってし

まってはどうかという意見が出され、今後検討することとした。また、打合せ場所ではなく、パネル会場で待っていた発表者がいたので、集合場所の徹底も確認された。

また、事前に問題となった、会場のゲストの発言は、結局フロアから9分ぐらいで話を終えたので、問題にはならなかった。しかし、パネリストの構成や非会員の発表可能性については考えていかなければならないという認識は共有した。

あるパネル会場で、資料配布をパネリストにまかせたところ、最初に配るだけだったので、後から入ってきた参加者に行き渡らなかった。資料配布のタイミングは会場委員がチェックすべきであった。また、申請していない追加配布資料があり、終了時に「持って行ってください」と資料を配っていた。事前申請していない資料は「お持ち帰りコーナー」に置かせ、余ったら発表者が持ち帰らせるということを徹底させたい。以上のような問題は、打ち合わせ時に配布物・配布者の確認を徹底することで解決しておくことを確認した。

デモンストレーション会場で発表者ではない関係者に規則で写真撮影禁止であることを伝えたら激しい抗議。後ほど委員長から厳重注意した。他にも、別のデモで教材の音が大きく隣から苦情が出たり、終了時間の指示に従わなかったりと、いろいろと問題があった。デモ会場には、ソフトの開発者など、学会員でない人が入ることがあるので、禁止事項の徹底は、念入りに行うべきであることを確認した。

大きい会場では中央を空けて両脇に座る人が多いので、詰めるよう会場委員が指示するが、タテに長い会場で後ろまで聞こえるかどうかチェックしきれなかった。担当者の増員には限界があるので、教室の構造により問題が予測される場所は対処すべきであめことが提案された。

4. その他

2日目の大会委員最終集合時に次のような追加報告・提案があったので、今後の検討課題とした。

(1) デモでスクリーンがわりの模造紙の貸与希望があり、会場校がスクリーンの使用を勧めてくれたが、壁に映して解決した。

(2) ポスターの集合時間30分前は早すぎる。もっと遅くして、20~15分前でよいだろう。

(3) ポスター発表者の中座時間許可を最大何分とするか、発表者へのお知らせに明記すべきか今後検討の要あり。

(川口 義一)

◆2009年6月27日、日本語教育学会事務局会議室において、2009年度第3回大会委員会が開かれた。主な議題と審議の様子は以下のとおりである。

1. 副委員長の指名

委員長により、継続委員から松岡委員、新委員から砂川、宮副の2名の合計3名が指名され、委員会として確認した。

2. 2009年度秋季大会(九州大学)の進捗状況

(1) 会場について

事務局より、キャンパスへのアクセスは良好であること、初日と二日目、別棟となること、会場間の行き来がスムーズにできるように会場の配置を検討していること、などの報告があった。

(2) 日程について

2日目の昼休みの説明会は、日本留学試験(JASSO)、日本語教育能力試験(JEES)の二部構成でおこなうことを了承した。また、昼休みの時間帯における説明会などの要望への対応について、今後、大会委員会で検討することとした。

(3) シンポジウム

九州大学の企画運営によるシンポジウムの内容について、事務局から報告を受けた。

(4) 2日目の昼食場所について

事務局より、カフェテリア等営業しておらず、コンビニなども近くにないことから、事務局と会場校の担当者として弁当の販売について検討中であることが報告された。

3. 2009年度春季大会の発表者の選考

審査の結果、「口頭発表」については、査読採点で基準点のボーダーラインにあるものを検討し、その結果28件を採用した。なお、28件中2件については条件採用とした。「口頭発表」と同じ手順で、「ポスター発表」16件、「パネルセッション」6件、「デモンストレーション」6件を採用することを決定した。不採用者に対するコメント執筆の担当者、発表会場割り振り案作成の担当者も決定した。

4. その他

(1) 大会の筆頭発表者への予稿集事前発送

事務局から、冊子発送をやめ、PDFファイルで送信する方式に変更する旨の報告があり了承した。

次回委員会は、2009年8月22日(土)午後2時開催予定。

(二通 信子)

● 学会誌委員会

◆2009年6月6日(土)午後2時~5時まで早稲田大学にて7月からの新任次期委員を招いて合同

学会誌委員会を開催した。出席は現委員19名と次期委員14名、および事務局2名の計35名であった。欠席は現委員8名と次期委員1名。委員紹介の後、142号の進捗状況、144号と146号の特集の進捗状況の報告があり、以下を審議し、承認した。

- (1) 7月以後の次期委員会の委員長に廣瀬（継続）を、副委員長に横山委員（継続）と西口次期委員を選任した。
 - (2) 148号特集WGの担当者に山内次期委員を選任。テーマ等は次回委員会で決めることにした。
 - (3) 本年7月のシドニーにおける国際大会の報告をお願いする方々の候補を承認した。
 - (4) 143号のコラム「海外の学会から」に掲載予定の学会報告について、執筆依頼の担当者を確認した。また、144号以降のコラム編集担当に仁科委員（継続）と築島次期委員を選任。
 - (5) 143号投稿論文の査読審査を行い、条件採用2本、再投稿9本、不採用26本、保留1本という結果となった。保留1本については、極似の内容の論文が既刊号に掲載されているという指摘があったので、後日委員長が投稿者および内容を確認の上、当該論文の処遇を判断し、副委員長と査読者に諮った上で全委員に報告することにした。
 - (6) 学会誌の刊行を年3回に変更することが5月の総会で決定されたことを受け、以下を決めた。
 - (a) 145号までは既定の日程で投稿〆切りから刊行まで7ヶ月とするが、146号以降については、投稿〆切りから刊行まで8ヶ月とする。査読期間および〆切りから査読審査委員会までの期間はこれまで通りとし、改稿期間を長くする。
 - (b) 1号当りの頁数が増加することについて、学会誌リニューアル検討WGを作り、検討することにした。
 - (7) その他、英文要旨の掲載位置を論文（参考文献等を含む）の直後に変更することにした。
- 次回委員会は2009年8月29日（土）午後2時の予定。

（廣瀬 正宜）

● 研究集会委員会

I. 研究集会報告

平成20年度第11回研究集会（関西地区）

日時：2009年3月7日（土）13:00～17:30

会場：同志社女子大学今出川キャンパス

参加人数：161名（会員105名、一般56名）

内容：口頭発表12本、シンポジウム「関西におけるビジネス日本語教育—その現状と課題—」

第一部のシンポジウムは関西研究集会において

はじめての試みであった。現代的課題の一つであるビジネス日本語教育を取り上げ、関西における現状と課題をテーマとした。日振協のビジネス日本語プロジェクト、アジア人財のビジネス日本語教育の関西での実践、大学教育における教育実践について紹介と提題ののちフロアと議論した。

第二部の研究発表は、学習者の誤用、作文教育、教育実践、日本人学生や日本語教師に対するイメージや評価など多彩な内容であった。

参加者は150名を超え、会場に補助椅子を出すほどであった。口頭発表も4会場それぞれ活発で有意義な時間であった。

（報告者：由井紀久子）

II. 会議記録

◆平成21年度第1回研究集会全体委員会(5月23日)

1. 各地区研究集会についての報告と課題・提案
各地区からさまざまな意見が出された。
 - ・活動報告等で地域からの協力を得ている。ボランティアや外国人父母からの協力は得られるが、教育委員会等からの参加が難しい。各地区で教育委員会などとの協働が成功している例があれば、ぜひ報告していただきたい。
 - ・発表応募が増えていることは喜ばしいことであるが、参加者が少ない地区では分科会等も難しく、選抜が難しい。
 - ・発表応募について何をどう書くかわからない応募者もあった。今後は発表応募規定の内容をもっと詳しくしたほうがよい。
 - ・昨年度から取り入れた活動報告枠の扱いについて試行錯誤の状態である。
 - ・中部地区では研究集会応募用に事務局でメールアドレスを発行してもらい、円滑に作業できた。

2. その他

関西地区より団体会員（学校・機関単位）での研究集会発表は可能であるか、理事会等でも審議してほしいとの質問があった。学会発表は基本的に個人会員資格であり、今まで発表の例がない。研究集会では活動報告という枠を設けているので、今回はこちらでの発表をお願いすることになった。今後の情勢に合わせ、理事会でも必要に応じて継続的に検討をすることとなった。

3. 新旧委員の交代について

委員交代のある地区より報告があった。

◆平成21年度第1回研究集会中央委員会(5月28日)

1. 2009年度実践研究フォーラムの運営について
- (1) パネルセッションについて
- (2) 各ラウンドテーブルの進め方について
- (3) ポスターセッションについて

(4) 予稿集について

(5) その他（新委員への業務引き継ぎについて）

2. 新委員の紹介

7月1日の任期前ではあるが、本会議より新委員もオブザーバーとして参加した。

◆平成21年度第2回研究集会中央委員会(6月18日)

1. 2009年度実践研究フォーラムの運営について

(1) 予稿集原稿の確認

(2) ラウンドテーブル進捗状況の報告

(3) ポスターセッションについて

(4) フォーラム第1日目の趣旨説明とパネルセッションの運営について

(5) 当日の進行について

2. その他

2009年7月1日からの副委員長2名を選出し、金孝卿委員、池田智子委員に決定した。

※次回の研究集会委員会会議予定

全体委員会：2009年10月10日

中央委員会：2009年7月23日

(堀井 恵子)

● 教師研修委員会

I. 研修実施報告

1. 短期集中研修「日本語教師のための統計学入門（前半）」

講師：黒沢学（東京電機大学）

開催日：2009年4月19日（日）

場所：東京海洋大学

参加者：85名

2. 短期集中研修「『Digital Storytelling』手法を利用した日本語学習環境 ー明日の授業で使えるデジタル教材作成」

講師：リチャード・ハリソン（神戸大学留学生センター）、實平雅夫（同）

開催日：2009年5月16日（土）

場所：神戸大学留学生センター

参加者：23名

※本研修は、神戸地区で新型インフルエンザ患者が発生し、会場である神戸大学からの要請により午後の研修が中止となった。

3. 日本語アトリエNKG第2回「統計研修（4月19日）の復習と疑問」

ゲスト：孫愛維（お茶の水女子大学博士課程）、ムーホン（同）

開催日：2009年6月26日（金）

場所：日本語教育学会事務局会議室

参加者：9名

II. 今後の研修予定

1. 合宿研修「考える・伝える・学びあうⅡ
ー“豊かな”学びの支援に向けてー」

講師：横溝紳一郎（佐賀大学）、河野俊之（横浜国立大学）、二通信子（東京大学）、館岡洋子（早稲田大学）

場所：OVTA（海外職業訓練協会）（千葉）

開催日：2009年8月8日（土）、9日（日）

定員：90名

2. 短期集中研修「大規模試験を見る目・現場に活かす力を養うー課題遂行能力の育成と測定にむけてー」

講師：伊東祐郎（東京外国語大学）・大隅敦子（国際交流基金日本語試験センター）・畠山理恵（同）

場所：東京国際大学早稲田サテライト

開催日：2009年10月24日（土）

定員：50名

3. 短期集中研修「日本語教師のための統計学入門（後半）」

講師：黒沢学（東京電機大学）

場所：東京海洋大学

開催日：2009年12月13日（日）

定員：80名

4. 短期集中研修「専門日本語領域（仮称）」

場所：東京

開催日：2010年1月（予定）

5. 短期集中研修「教室活動のデザインⅢ」

場所：東京

開催日：2010年2月（予定）

6. オンライン研修「日本語教師のためのOn-Line IT講座基礎編」

開催日：2010年1月～3月（予定）

7. オンライン研修「日本語教師のためのOn-Line IT講座活用編」

開催日：2010年2月～3月（予定）

8. 日本語アトリエ

場所：日本語教育学会事務局会議室

開催日：原則として、3月、6月、9月、12月に実施予定

◆「日本語教師研修コース」についての詳細は日本語教育学会Websiteの教師研修ページをご覧ください。詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載していきます。

<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

III. 委員会での討議事項

1. 2009年度第1回教師研修委員会（4月25日）

(1) 新委員紹介および委員任期について

(2) 教師研修委員の謝金について

(3) 年間会議日程調整

- (4)各研修会報告
- (5)2009年度研修計画
- (6)その他

◇ 事務局からのお知らせ ◇

- 2. 2009年度第2回教師研修委員会(6月27日)
 - (1)合宿研修の係分担・内容の確認
 - (2)2009年度の研修未定分に関する討議
 - (3)研修の評価について
 - (4)アトリエの進め方について
 - (5)新委員の研修の分担
 - (6)2009年度委員会の決定
 - (7)その他

- 3. IT講座講師連絡会議(5月31日)
 - (1)2009年度のオンラインIT講座について
 - (2)今後のオンラインIT講座について
 - (3)その他

※次回の教師研修委員会会議予定
2009年8月9日(日)

(嶋田 和子)

● 試験分析委員会

第1回試験分析委員会 2009年5月30日(土)

- 1. 新委員(柿山礼美氏)が承認された。
- 2. 『平成20年度(2008年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿執筆の担当を決定した。
- 3. 『平成19年度(2007年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の出版の時期について報告があった。
- 4. 平成21(2009)年度の分析報告書の作成について、以下のことが話し合われた。
 - ・試験小委との合同委員会は何らかの形で実施する方向で検討する。
 - ・7月実施分と12月実施分を合冊として出版するほうが効率的である。
 - ・今年度は、今年7月実施分の分析にとりかかる必要があるため、従来よりも2回多く委員会を開催する。

第2回試験分析委員会 2009年6月27日(土)

- 1. 平成21年度第1回試験プレスリリースの紹介があった。
- 2. 平成20(2008)年度試験結果報告会日程調整を行った。
- 3. 平成20(2008)年度合同委員会日程調整を行った。
- 4. 平成20(2008)年度分析報告書(文字・語彙類, 聴解, 読解・文法類)の原稿の検討が行われた。

(野口 裕之)

● 2009(平成21)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店(普)130-880757

○現金書留

銀行の支店の統合により、「みずほ銀行」への会費振込先が上記のとおり変更になりました。ご注意ください。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」の運用を開始いたしました。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)をご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552

E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp